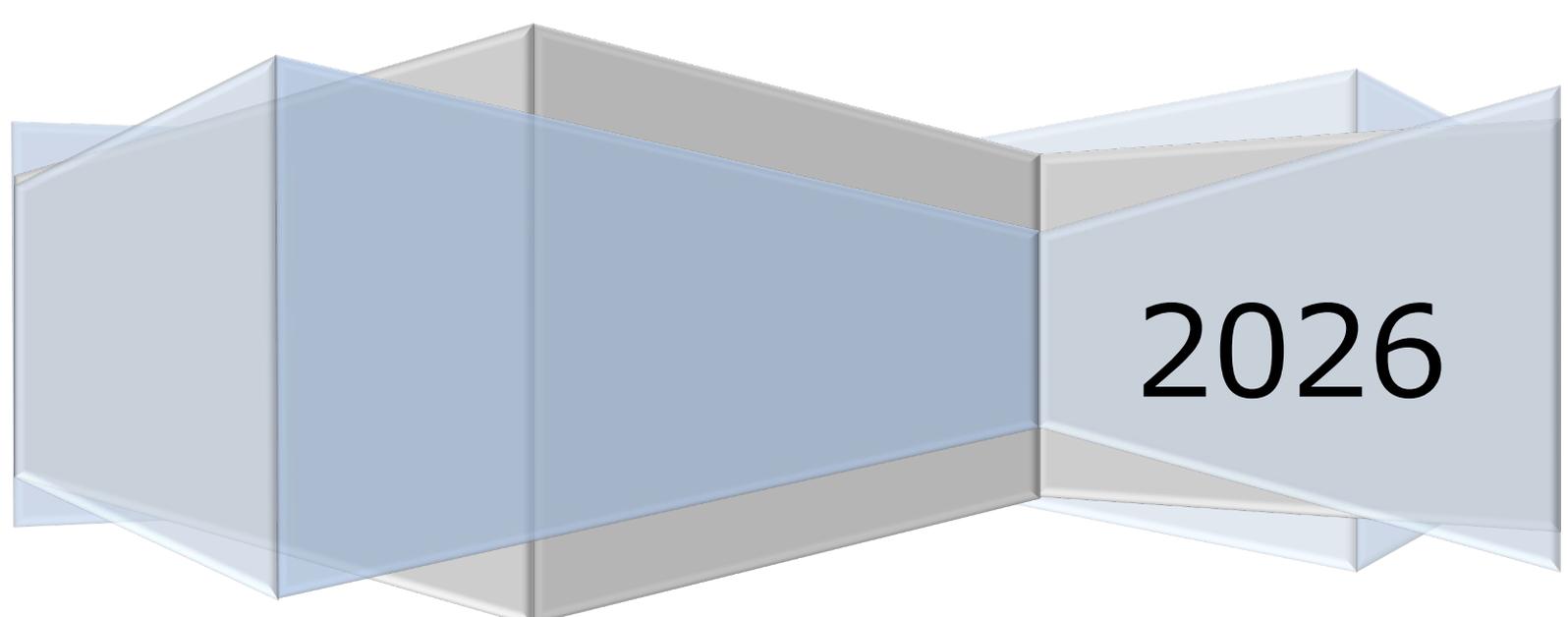


東京科学大学リベラルアーツ研究教育院（国府台地区）

# 教 育 要 項

－教養教育－



2026

# 目次

<b>教養セミナーについて</b> .....	1
教養セミナー I・II .....	4
教養セミナー I .....	5
教養セミナー II .....	8
教養自由セミナー I .....	10
教養自由セミナー I .....	11

## 教養セミナーについて

### 【概要】

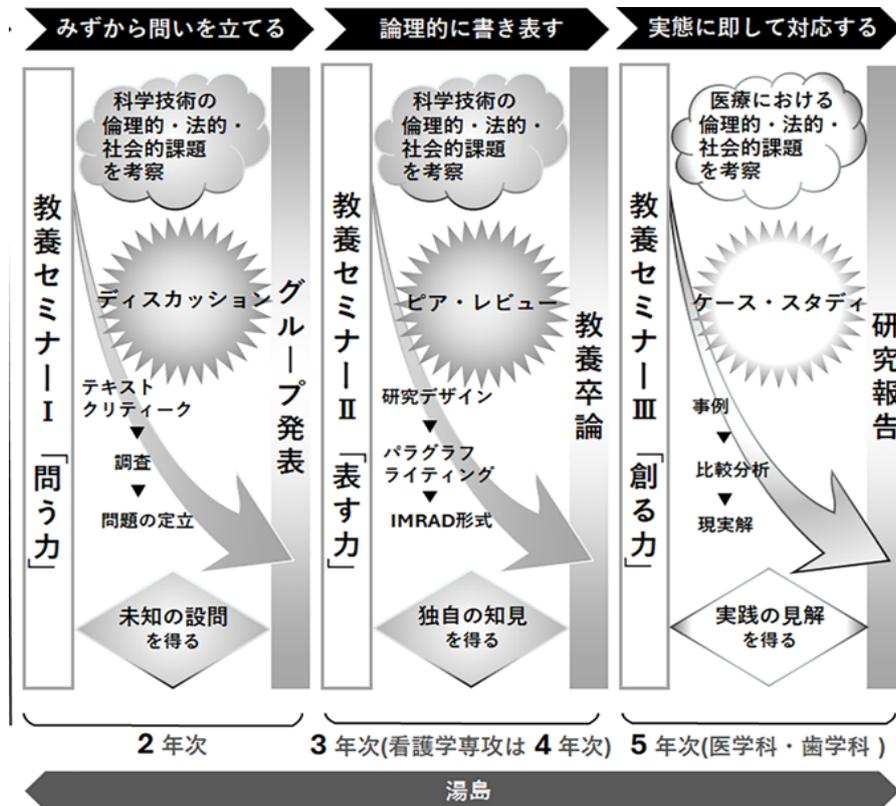
教養セミナーは、教育理念に明記された本学の使命、すなわち「科学の力で、地球と宇宙の根源的な問題から、人類と社会・環境に差し迫った様々な課題までの解決に挑む、大志を抱いた卒業生・修了生を世界の隅々にまで届ける」ために必要不可欠な授業として実施されます。皆さんが将来、挑戦することを求められる「地球と宇宙の根源的な問題」や「人類と社会・環境に差し迫った様々な課題」とは何か。さらには、それらの「解決」とは一体何を意味するのか。教養セミナーでは、こうした問いについて、哲学や心理学などの人文科学、法学や経済学などの社会科学、そして自然科学の様々な視座から検討します。

新型コロナウイルス感染症のグローバルな流行を例にとりましょう。2020年に日本でも最初の感染者が報告されて以来、この出来事は、科学や医療と現代社会との密接かつ一筋縄ではいかない関係を可視化しました。未知のウイルスによる感染症が、医療供給体制をひっ迫させ、経済を停滞させ、家庭や学校での生活の質を劣化させ、人びとの行動様式だけでなく価値観にまで大きな変化をもたらしました。また、私たちの社会に蔓延する、科学や医療の専門家に対する不信や、ワクチンなどの医療技術への反発も露見させました。こうした経験を振り返るなら、科学的事実にもとづく医療をとおして社会と人類に貢献するためには、何が必要なのかが見えてきます。それは、科学・医療と社会との関係に対する深い理解であり、その理解を媒介にした科学・医療界と社会との真摯なコミュニケーションです。皆さんにとって教養セミナーが、こうしたコミュニケーションの土台作りとなることを期待しています。

教養セミナーには次のような特徴があります。(1)2年次以降の専門課程で実施されること。(2)全学科専攻の混成クラスに屋根瓦方式を採用した、7~8名の少人数セミナー形式を基本とすること。(3)科学や医療、その技術が私たちの暮らす社会に及ぼす様々な影響、さらにそこから生じる倫理的、法的そして社会的な課題(ELSI: Ethical, Legal and Social Issues)の考察を中心的な学習テーマとすること。

これらの特徴を持つ教養セミナーを通して、私たちの時代が抱える課題について仲間たちと考え議論し、最終的に、その成果を論文にしてもらいます。

## 【教養セミナーの全体像】



## 【各セミナーについて】

### ・教養セミナー I 「問う力」 (2年次)

水曜日の午後、湯島キャンパスで開講される教養セミナー I では、7～8人で構成されるセミナーにおいて科学技術と社会との関係について考え、議論することで、「みずから問う力」を育みます。

教養セミナー I は、テキスト・クリティークとグループワークという2つの柱から構成されます。テキスト・クリティークは、指定されたテキストを緻密に読解し、内容を正確に把握したり、批判的に検討したりする作業を指します。それは、担当者が行うプレゼンテーションによって進められます。テキスト・クリティークを通して、科学技術が現代の私たちに提起する倫理的・法的・社会的課題について議論し、理解を深めます。次に、テキスト・クリティークの成果を元にして、グループワークを行います。具体的には、各クラスで取り扱う科学技術の倫理的・法的・社会的課題を設定し、それについてリサーチをし、成果を発表会で発表してもらいます。このセミナーで培った知識や関心を発展させて、3年次の論文執筆に向かいます。

### ・教養セミナーⅡ「表す力」(3年次/看護学専攻のみ4年次)

火曜日の午後、湯島キャンパスで開講される教養セミナーⅡでは、「論理的に書き表す力」を涵養するべく、「教養卒論」を作成します。

7～8人で構成されるセミナーでは、事前に与えられた課題について各自が発表し、学生同士で質疑応答(ピアレビュー)を行い、教員からの論文執筆に向けたコメントをもらいます。また、授業外では、オンデマンド教材で論文の執筆方法などを自習し、次回のセミナーに向けた発表の準備と論文の執筆を進めます。セミナーの最終回では、「教養卒論発表会」を開催します。さらに、「医歯学系優秀論文」と「理工学系優秀論文」を発表する「教養卒論合同発表会」を大岡山キャンパスで開催します。

教養セミナーⅡで執筆される「教養卒論」は、教養教育の集大成となります。

### ・教養セミナーⅢ(5年次医学科・歯学科)

薬害や再生医療などの具体的なケースを教材として、生命倫理や研究倫理、さらに医療技術をめぐる倫理的・法的・社会的課題について、より専門的で実際の視座から掘り下げて考察することが、教養セミナーⅢの目的です。

セミナーとオンデマンド非同期型授業を併用した形式で実施することが予定されています。

### ・教養自由セミナーⅠ(4年次/看護学専攻のみ3年次)

自由科目として開講される教養自由セミナーⅠの履修者は、教養セミナーⅠの各クラスに学生チューターとして参加します。教員と共にセミナーの指導を行うことで、ファシリテーションやリーダーシップのスキルを磨きます。

### ・教養自由セミナーⅡ(6年次医学科・歯学科)

自由科目として開講される教養自由セミナーⅡの履修者は、教養セミナーⅠの各クラスに学生チューターとして参加します。教員と共にセミナーの指導を行うことで、ファシリテーションやリーダーシップのスキルを磨きます。

# 教養セミナー I・II

時間割番号	00470				
科目名	教養セミナー I	科目 ID			
担当教員	藤井 達夫, 檜枝 光憲, 猪熊 恵子, 奈良 雅之, 木谷 真紀子, 柳下 和慶, 辻 泰明, BAO MIN, 中林 潤, 中山 まどか, 松本 幸久, 勝又 敏行, 徳永 伸一, 黒丸 愛美[FUJII Tatsuo, HIEDA Mitsunori, INOKUMA Keiko, NARA Masayuki, KITANI Makiko, YAGISHITA Kazuyoshi, TSUJI Yasuaki, BAO MIN, NAKABAYASHI Jun, NAKAYAMA Madoka, MATSUMOTO Yukihiisa, KATSUMATA Toshiyuki, TOKUNAGA Shinichi, KUROMARU Ami]				
開講時期	2026 年度通年	対象年次	2	単位数	1
実務経験のある教員による授業				授業形態	対面
<p>教養セミナー I は、専門課程の 2 年次に学科専攻混成の少人数セミナーで実施されます。プレゼンテーションとディスカッションによる指定図書のテキスト・クリティーク、さらにリサーチを中心にしたグループワークをとおして「問う力」を身につけます。合同の発表会においてセミナーの成果をクラスごとに発表します。</p> <p>【コンピテンシー】</p> <p>1-10) 現代社会における科学の責任を意識できるようになる</p> <p>2-1) 自然現象を科学的に探求するための方法論を知る</p> <p>2-4) 自己問題提起・解決型の学習方法を身につける</p> <p>3-3) チームの中で、自己の役割を果たす能力を身につける</p> <p>4-4) 情報についての基本技能を身につける</p> <p>5-1) ELSI を認知し、その重要性を理解する</p> <p>5-2) ELSI を分析・評価する視座・方法論を獲得す</p>					
<p><b>授業の目的、概要等</b></p> <p>教養セミナー I では、現代社会における科学技術の諸課題(ELSI:Ethical, Legal and Social Issues)を共通テーマとして取り上げます。受講生の皆さんには、指定図書のテキスト・クリティークとリサーチをベースにしたグループワークをとおして、「高度に発達した科学技術は私たちにどんな課題を与えているのか」、そして「その課題に対してどう向き合うのか」という現代を生きるすべての人びとに投げかけられている問いを考察してもらいます。</p> <p>指定図書として今年度取り上げるのは、ユヴァル・ノア・ハラリ『21 Lessons—21 世紀の人類のための 21 の思考』です。これは現在の世界で、ELSI がどのように議論されているかを知る上で格好のテキストです。このテキストの批判的な精読とディスカッションを出発点として、現代社会における科学技術の課題を自分たちで特定し、協働してその課題と解決策のリサーチをし、合同発表会でその成果を発表します。</p>					
<p><b>授業の到達目標</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ELSI に関するテーマを設定した上で、既存の科学技術の実例を挙げて、その倫理的・法的・社会的な問題を抽出できる。</li> <li>・信頼できる情報源から獲得した知識やデータを多角的な視点から適切に活用し、論理的に考えることで、ELSI についての自分の意見を形成できる。</li> <li>・指定図書を正確かつ批判的に読んだ上で分かりやすい発表ができ、さらに、ディスカッションのための問題提起ができる。</li> <li>・ディスカッションやリサーチなどのグループワークに積極的に参加できる。</li> <li>・様々な国や地域の歴史や文化を反映した多様な意見に配慮しつつ、ELSI についての解決策を具体的かつわかりやすい形でグループ発表できる。</li> <li>・レポートなどの課題を期日内に提出できる。</li> </ul>					
<p><b>授業方法</b></p> <p>セミナー形式で進めます。毎回の課題の発表とそれについてのディスカッションを中心にしたグループワークを行います。発表の仕方やスライドの作成方法などについては、LMSに掲載されている共通の教材を参照してもらいます。</p>					
<p><b>授業内容</b></p> <p>第 1 回・・・ガイダンス</p>					

<p>第 2 回・・・テキスト・クリティーク</p> <p>第 3 回・・・テキスト・クリティーク</p> <p>第 4 回・・・グループワーク(発表テーマの決定)</p> <p>第 5 回・・・グループワーク(発表用スライドの共有)</p> <p>第 6 回・・・グループワーク(発表用スライドの作成)</p> <p>第 7 回・・・グループワーク(発表用スライドの完成とリハーサル)</p> <p>第 8 回・・・発表会</p>
<p><b>成績評価の方法</b></p> <p>セミナー内での発表、ディスカッションやリサーチへの参加度、課題への取り組み、発表会での発表などによって総合的に評価します。</p> <p>再評価： 無</p>
<p><b>成績評価の基準</b></p> <p>「東京科学大学学修規程第 6 条」による</p>
<p><b>準備学習等についての具体的な指示</b></p> <p>毎回の授業で担当教員から具体的な指示があります。</p>
<p><b>試験の受験資格</b></p> <p>2/3 以上の出席を成績評価の要件とします。</p>
<p><b>教科書</b></p> <p>21 Lessons : 21 世紀の人類のための 21 の思考 / Harari, Yuval N., 1976-, 柴田, 裕之, 1959-, ユヴァル・ノア・ハラリ 著, 柴田裕之 訳: 河出書房新社, 2021.11</p>
<p><b>他科目との関連</b></p> <p>教養セミナー II</p>
<p><b>履修上の注意事項</b></p> <p>授業の進め方や課題の提出方法、当授業での生成系 AI の使用などについては、初回授業で説明を行います。</p>
<p><b>備考</b></p> <p>詳細については、LMS に掲載された「2026 年度教養セミナー I 学生説明会ビデオ」を参照してください。</p>
<p><b>連絡先(メールアドレス)</b></p> <p>藤井 達夫:fujii.t.ceaa@m.isct.ac.jp</p> <p>中林 潤:nakabayashi.j.0bcc@m.isct.ac.jp</p> <p>徳永 伸一:tokunaga.s.59d5@m.isct.ac.jp</p> <p>奈良 雅之:nara.m.cf74@m.isct.ac.jp</p> <p>勝又 敏行:katsumata.t.6316@m.isct.ac.jp</p> <p>柳下 和慶:yagishita.k.226c@m.isct.ac.jp</p> <p>猪熊 恵子:keiko.inokuma@ila.isct.ac.jp</p> <p>松本 幸久:matsumoto.y.8854@m.isct.ac.jp</p> <p>BAO MIN:min.b.8dae@m.isct.ac.jp</p> <p>木谷 真紀子:makiko.las@tmd.ac.jp</p> <p>檜枝 光憲:mitsunori.hieda@ila.isct.ac.jp</p> <p>中山 まどか:nakayama.m.08bb@m.isct.ac.jp</p> <p>辻 泰明:tsuji.y.29d4@m.isct.ac.jp</p>
<p><b>オフィスアワー</b></p> <p>藤井 達夫:毎週月曜日 12:00—13:00(管理棟 2 階)</p> <p>中林 潤:月曜～金曜</p> <p>A.M.10:00 - P.M. 05:00</p> <p>国府台キャンパス 4 階 教官研究室—9</p> <p>徳永 伸一:前期:</p>

火曜 12:30-13:20(ヒポ 4F 徳永研究室またはヒポ 2F 計算機実習室)

後期:

木曜 12:30-13:20(ヒポ 4F 徳永研究室またはヒポ 2F 計算機実習室)

\* いずれも計算機実習室で授業がある日なので、そちらにいることが多いです。  
上記以外の時間帯でも、事前にEメールで連絡をもらえれば可能な限り対応します。

奈良 雅之:前期:毎週火曜日 PM.0:30-PM.1:20, ヒポクラテス 4 階教員研究室6

後期:毎週木曜日 PM.0:30-PM.1:30, ヒポクラテス 4 階教員研究室6

勝又 敏行:毎週金曜日 12:00-13:00 ヒポクラテス 2 階化学実験準備室

柳下 和慶:毎週木曜日 12:30-13:00 管理研究棟 2 階 研究室

猪熊 恵子:水・木曜日 12時30分～13時 管理研究棟 3階 猪熊研究室

松本 幸久:毎週木曜日 PM.4:30-6:00 ヒポクラテスホール 4 階 教員研究室 10

BAO MIN:水曜日 12:30～13:00 管理研究棟 3 階 研究室

木谷 真紀子:月、金曜 12:20～13:30 管理研究棟 2 階

※原則的に上記の曜日時間としますが、事前に連絡のある学生には、上記時間外でも対応します。

檜枝 光憲:毎週火曜日 12:30～13:00 ヒポ 3F 教員研究室 2

中山 まどか:水曜日 12:30--13:30

質問等随時メールで受け付けています。(nakayama.m.08bb@m.isct.ac.jp)

辻 泰明:前期:金 14:30～15:00 後期:水 12:30～13:00

時間割番号	00480				
科目名	教養セミナーⅡ	科目 ID			
担当教員	藤井 達夫, 高木 佳奈, BAO MIN, 辻 泰明, 猪熊 恵子, 藤井 俊吾, 木谷 真紀子, 飛田 綾子, 飯田 卓, 宇田川 誠, 小埜 功貴[FUJII Tatsuo, TAKAKI Kana, BAO MIN, TSUJI Yasuaki, INOKUMA Keiko, FUJII Shungo, KITANI Makiko, TOBITA Ayako, IIDA Suguru, UDAGAWA Makoto, ONO Koki]				
開講時期	2026 年度通年	対象年次	3	単位数	1
実務経験のある教員による授業				授業形態	対面
<p>教養セミナーⅡは、専門課程の3年次(看護は4年次)に学科専攻混成の少人数セミナーで実施されます。現代社会における科学技術の課題について、自らが問いを立てて調査を行い、実証的なデータに基づいて考察します。その結果を論文として執筆し、論理的に書き表す力を身につけます。</p> <p>【コンピテンシー】</p> <p>1-10)現代社会における科学の責任を意識できるようになる</p> <p>2-1)自然現象を科学的に探求するための方法論を知る</p> <p>2-4)自己問題提起・解決型の学習方法を身につける</p> <p>3-2)自らの考えを的確に伝えるための基本的な文章表現能力を身につける</p> <p>3-3)チームの中で、自己の役割を果たす能力を身につける</p> <p>4-4)情報についての基本技能を身につける</p> <p>5-1) ELSI を認知し、その重要性を理解する</p> <p>5-2) ELSI を分析・評価する視座・方法論を獲得する</p>					
<p><b>授業の目的、概要等</b></p> <p>教養セミナーⅡでは、教養セミナーⅠに引き続きELSI(Ethical, Legal and Social Issues)を共通テーマとして取り上げます。受講生の皆さんには、教養セミナーⅠの成果を活かし、「高度に発達した科学技術は私たちにどんな課題を与えているのか」、そして「その課題に対してどう向き合うのか」という現代を生きるすべての人びとに投げかけられている問いを更に掘り下げて考察してもらいます。そして、自らが設定した具体的な研究課題に基づいて、調査と考察をおこない、論文を執筆します。</p>					
<p><b>授業の到達目標</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ELSIに関わる社会的事象を題材として、検討すべき問題を自分自身で設定し、それについて客観的調査と論理的考察を行うことができる。</li> <li>・自らが考えた研究課題についての研究成果(調査および考察の結果、明らかになったこと)を、論点と根拠を明示した整合性のある文章として執筆できる。</li> <li>・研究背景および先行研究の記述、調査結果と考察、引用と注記の形式などにおいて、研究倫理を遵守した執筆を行うことができる。</li> <li>・毎回の課題を期日内に提出できる。</li> </ul>					
<p><b>授業方法</b></p> <p>セミナー形式で進めます。毎回、クラスのメンバーが一人ずつ課題について報告し、簡単なプレゼンテーションを行います。担当教員からのコメントや他のメンバーによるピアレビュー(質問とコメント)によって論文執筆へのサジェスションを得ながら進めます。また、LMSに掲載されている共通の教材によって、論文執筆のためのアカデミック・スキルをオンデマンドで学びます。</p>					
<p><b>授業内容</b></p> <p>第1回 オリエンテーション</p> <p>第2回 研究背景や先行研究に関する発表</p> <p>第3回 研究方法に関する発表</p> <p>第4回 リサーチ・クエスションの絞り込みと研究計画の発表</p> <p>第5回 調査結果に関する発表</p> <p>第6回 調査結果の考察に関する発表</p> <p>第7回 結論の発表と論文提出準備</p>					

<b>第 8 回 発表会</b>
<b>成績評価の方法</b> 毎回の発表、課題への取り組み、執筆された論文などによって総合的に評価します。 再評価：有
<b>成績評価の基準</b> 「東京科学大学学修規程第 6 条」による。
<b>準備学習等についての具体的な指示</b> 授業内で担当教員が、ポイントや課題を具体的に指示します。
<b>試験の受験資格</b> 2/3 以上の出席を成績評価の要件とします。
<b>他科目との関連</b> 教養セミナー I
<b>履修上の注意事項</b> 授業の進め方や課題の提出方法、当授業での生成系 AI の使用などについては、初回授業で説明を行います。
<b>備考</b> 詳細については、LMS に掲載された「2026 年度教養セミナー II 学生説明会ビデオ」を参照してください。
<b>連絡先(メールアドレス)</b> 藤井 達夫:fujii.t.ceaa@m.isct.ac.jp 藤井 俊吾:fujii.shungo@ila.isct.ac.jp 高木 佳奈:takaki@ila.isct.ac.jp 猪熊 恵子:keiko.inokuma@ila.isct.ac.jp BAO MIN:min.b.8dae@m.isct.ac.jp 木谷 真紀子:makiko.las@tmd.ac.jp 辻 泰明:tsuji.y.29d4@m.isct.ac.jp
<b>オフィスアワー</b> 藤井 達夫:毎週月曜日 12:00～13:00(管理棟 2 階) 藤井 俊吾:木曜日 12:30～13:00 管理研究棟 2 階 研究室 高木 佳奈:毎週木曜日 AM.09:00～PM.13:00 管理研究棟 3 階スペイン語研究室 猪熊 恵子:水・木曜日 12時30分～13時 管理研究棟 3階 猪熊研究室 BAO MIN:水曜日 12:30～13:00 管理研究棟 3 階 研究室 木谷 真紀子:月、金曜 12:20～13:30 管理研究棟 2 階 ※原則的に上記の曜日時間としますが、事前に連絡のある学生には、上記時間外でも対応します。 辻 泰明:前期:金 14:30～15:00 後期:水 12:30～13:00

# 教養自由セミナー I

時間割番号	00500				
科目名	教養自由セミナー I	科目 ID			
担当教員	藤井 達夫[FUJII Tatsuo]				
開講時期	2026 年度前期	対象年次	1	単位数	1
実務経験のある 教員による授業				授業形態	対面
<p>対象学科:医学科・歯学科・検査技術学専攻・口腔保健衛生学専攻・口腔保健工学専攻の 4 年生、看護学専攻の 3 年生  開講日:水曜日 4 講  科目を履修して得られる能力(コンピテンシー):  別表 3-3)チームの中で、自己の役割を果たす能力を身につける</p>					
<b>授業の目的、概要等</b>					
<p>教養セミナー I のクラスに学生チューターとして参加します。教員と共にセミナーの指導を行うことで、ファシリテーションやリーダーシップのスキルを磨きます。</p>					
<b>授業の到達目標</b>					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・グループワークにおいて、ファシリテーションができる。</li> <li>・グループワークにおいて、チューターとして適切なアドバイスやサポートができる。</li> <li>・教員と協力して、セミナー全般を運営できる。</li> </ul>					
<b>授業内容</b>					
<p>第 1 回・・・イントロダクション、アイスブレイキング  第 2 回・・・指定図書テキストクリティーク  第 3 回・・・指定図書テキストクリティーク  第 4 回・・・グループワーク(発表テーマの決定)  第 5 回・・・グループワーク(リサーチ結果の共有)  第 6 回・・・グループワーク(発表用スライドの作成)  第 7 回・・・グループワーク(スライドの完成と予行練習)  第 8 回・・・発表会</p>					
<b>成績評価の方法</b>					
<p>セミナー内でのファシリテーションや学生へのサポートなどによって総合的に評価します。  再評価: 無</p>					
<b>成績評価の基準</b>					
<p>「東京科学大学学修規程第 6 条」による</p>					
<b>準備学習等についての具体的な指示</b>					
<p>毎回、担当教員から具体的な指示があります。</p>					
<b>参考書</b>					
<p>21 Lessons : 21 世紀の人類のための 21 の思考 / Harari, Yuval N., 1976-, 柴田, 裕之, 1959-, ユヴァル・ノア・ハラリ 著, 柴田裕之 訳: 河出書房新社, 2021.11</p>					
<b>他科目との関連</b>					
<p>教養セミナー I</p>					
<b>履修上の注意事項</b>					
<p>履修希望者は、国府台教務グループ(k.kyoumu.adm@tmd.ac.jp)までメールで問い合わせてください。</p>					
<b>連絡先(メールアドレス)</b>					
<p>fujii.t.ceaa@m.isct.ac.jp</p>					
<b>オフィスアワー</b>					
<p>毎週月曜日 12:00—13:00(管理棟 2 階)</p>					